

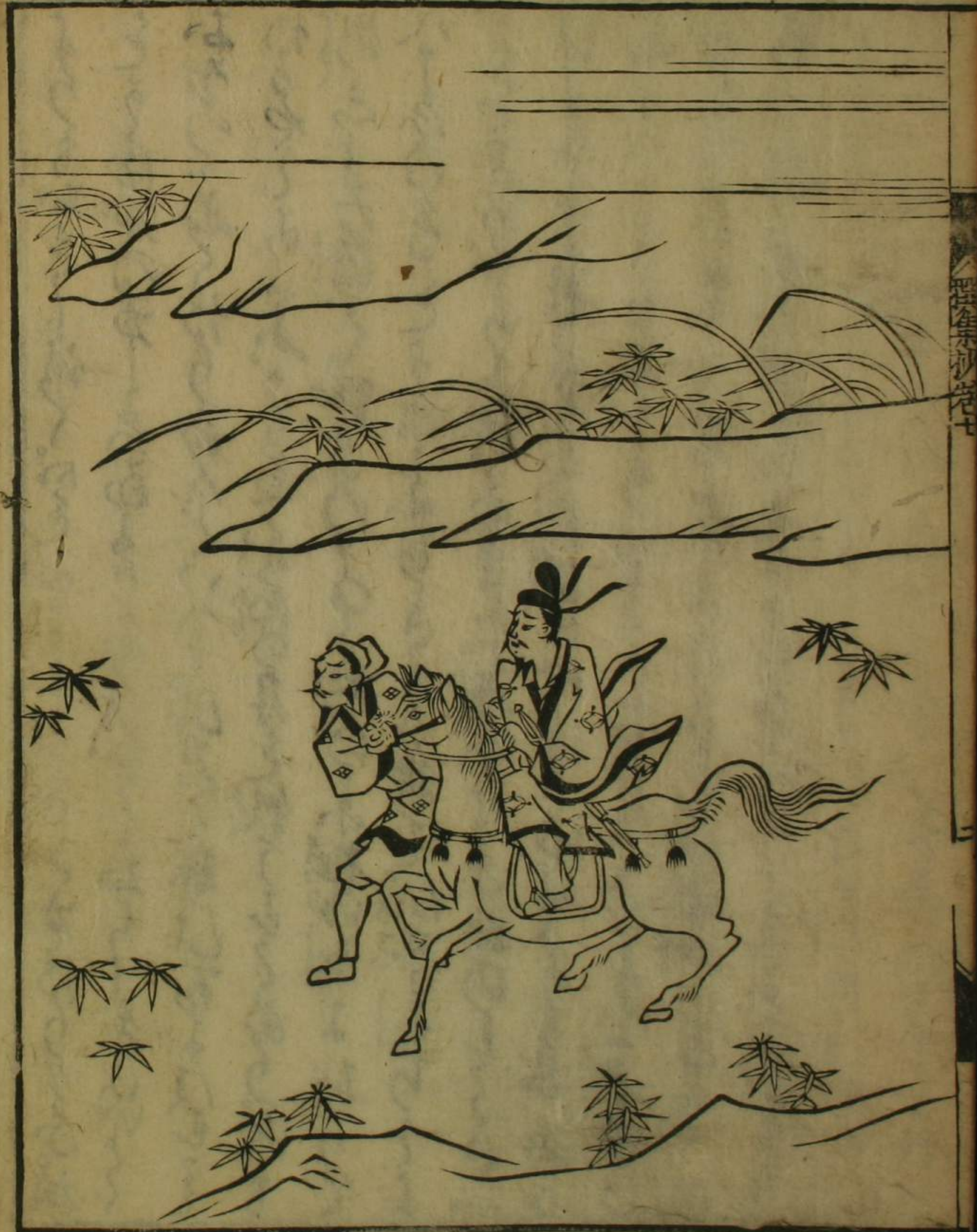


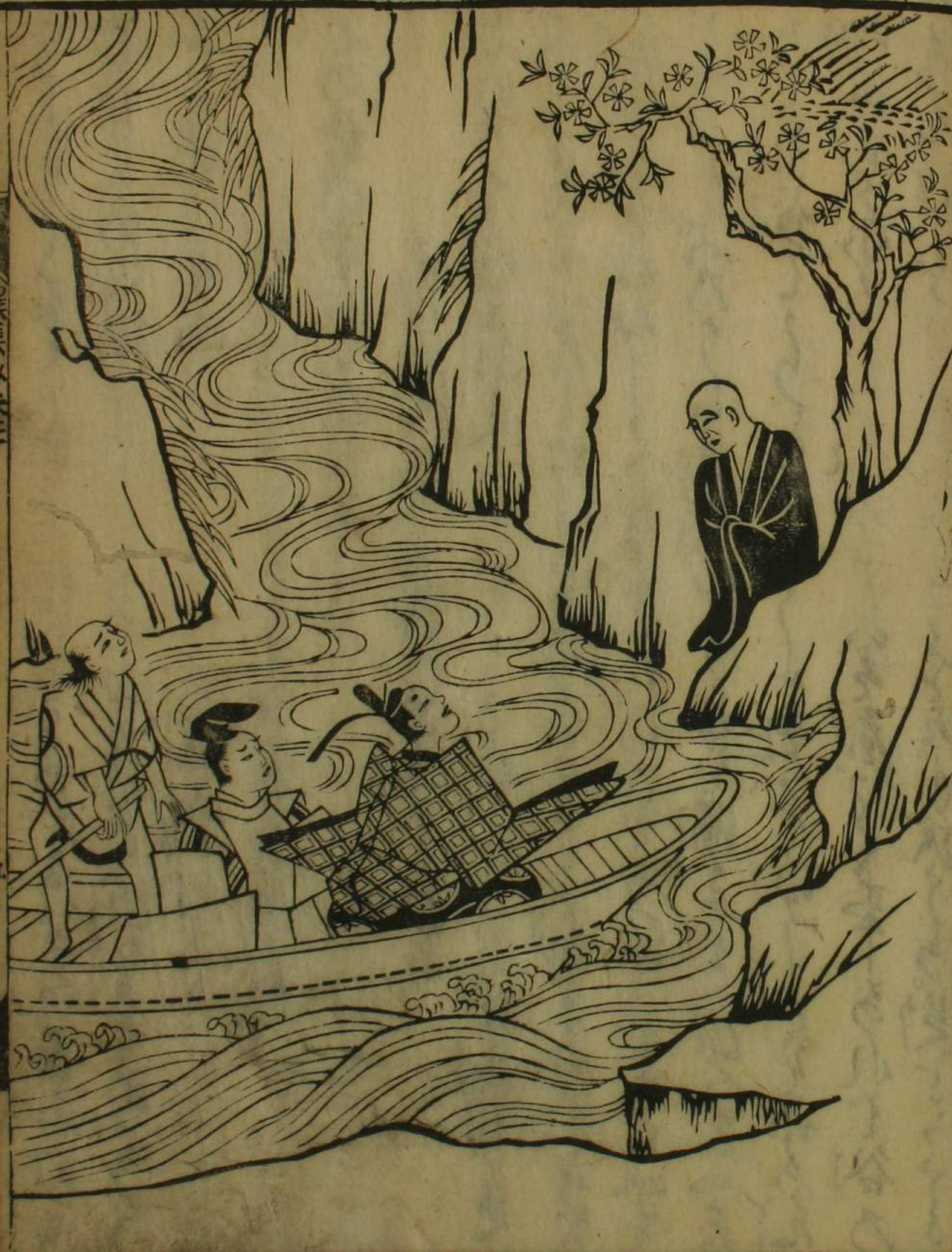
門へ利
歸 1708
卷 7

西外撰集抄卷中七

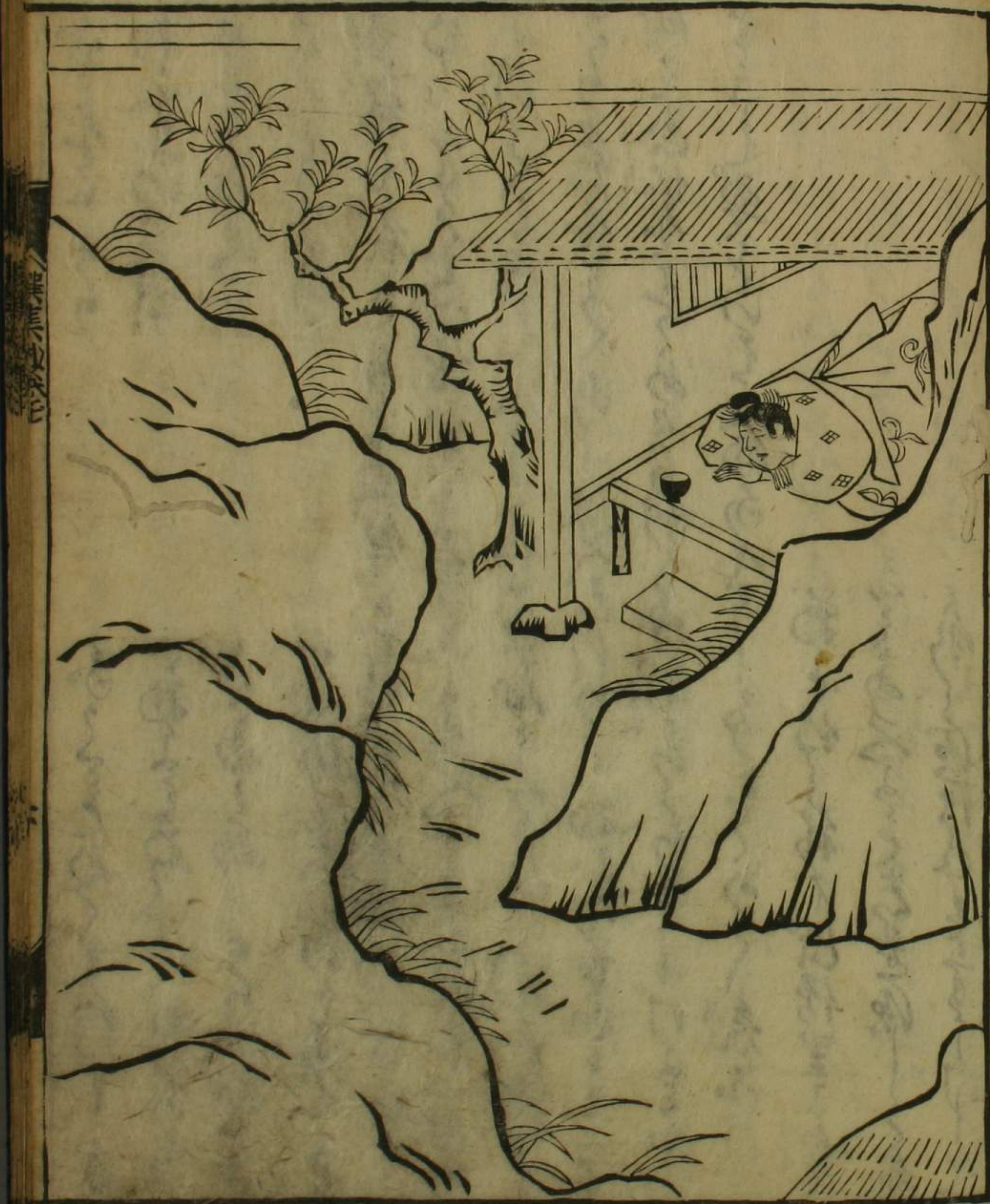
目録

- ① 唐亭子乃事 りうていし
- ② 西山禪定の儒乃事 みやまぜんぢやう じゆ
- ③ 相換國大庭乃儒乃事 さかひのくに たいぢやう じゆ
- ④ 予也之人乃事 よるや ひと
- ⑤ 仲篁大湊乃事 ちゆうむぎ たいそう
- ⑥ 魚心僧都の事 いしん じゆうだう
- ⑦ 皇相房乃事 すうさうぼう





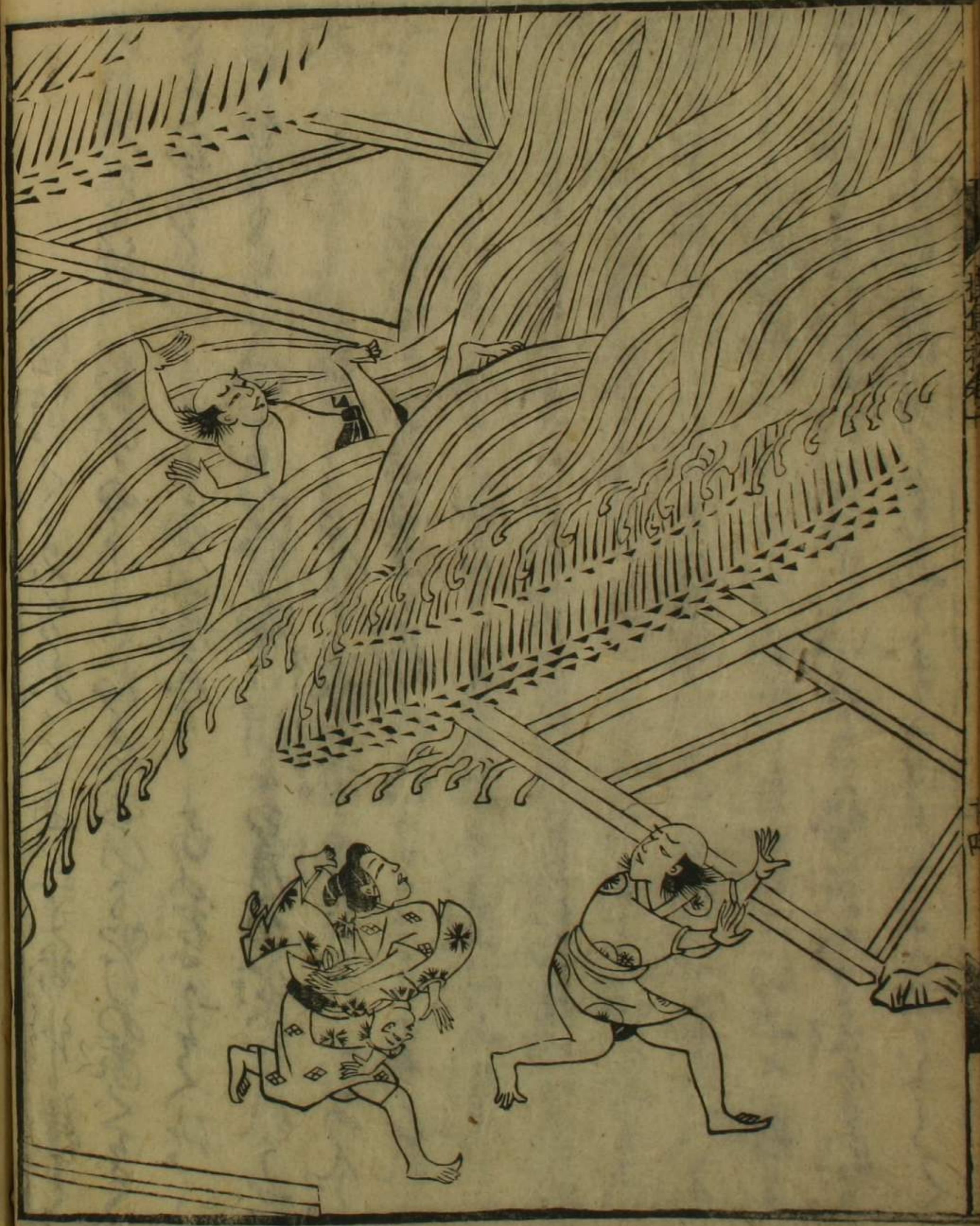
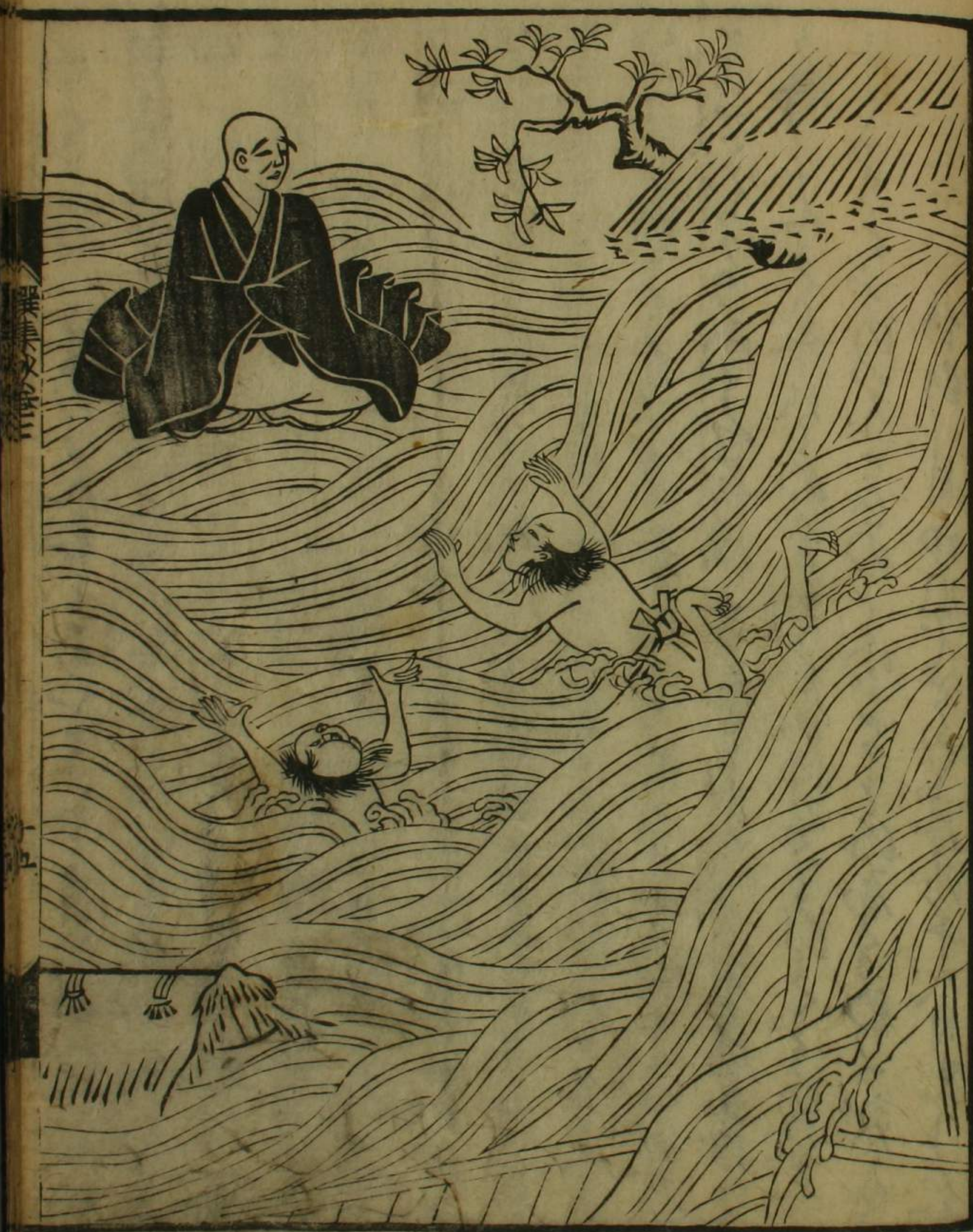
らんと刀をさすも程なく浪文を思ふもなれぬ文の竹
 とらむよとわぬがらにせぬら程なく船に花を死
 即温盤といふ文と志西と程なりし。さ程を社とよ
 むぶくもくちも程なりたぬよとく。わぬのくい文
 ちぬとさうりなれと。のく程をさすなりのお
 毎。同初とやある海とちがらぬとさすなりたぬ
 程といふよとさうりわぬびらりくよとさすなりたぬ
 竹ひんをぶらふ事ぬきた自柳々他平等しく美落
 のゆいもゆきとさす海とさすひく。人をさすなりたぬ
 一とこのくさあ程をさすなりたぬよとさすなりたぬ
 ん刀にゆき程をさすひひらぬれ名あをさすなりたぬ
 くをさすのゆきとさすなりたぬよとさすなりたぬ

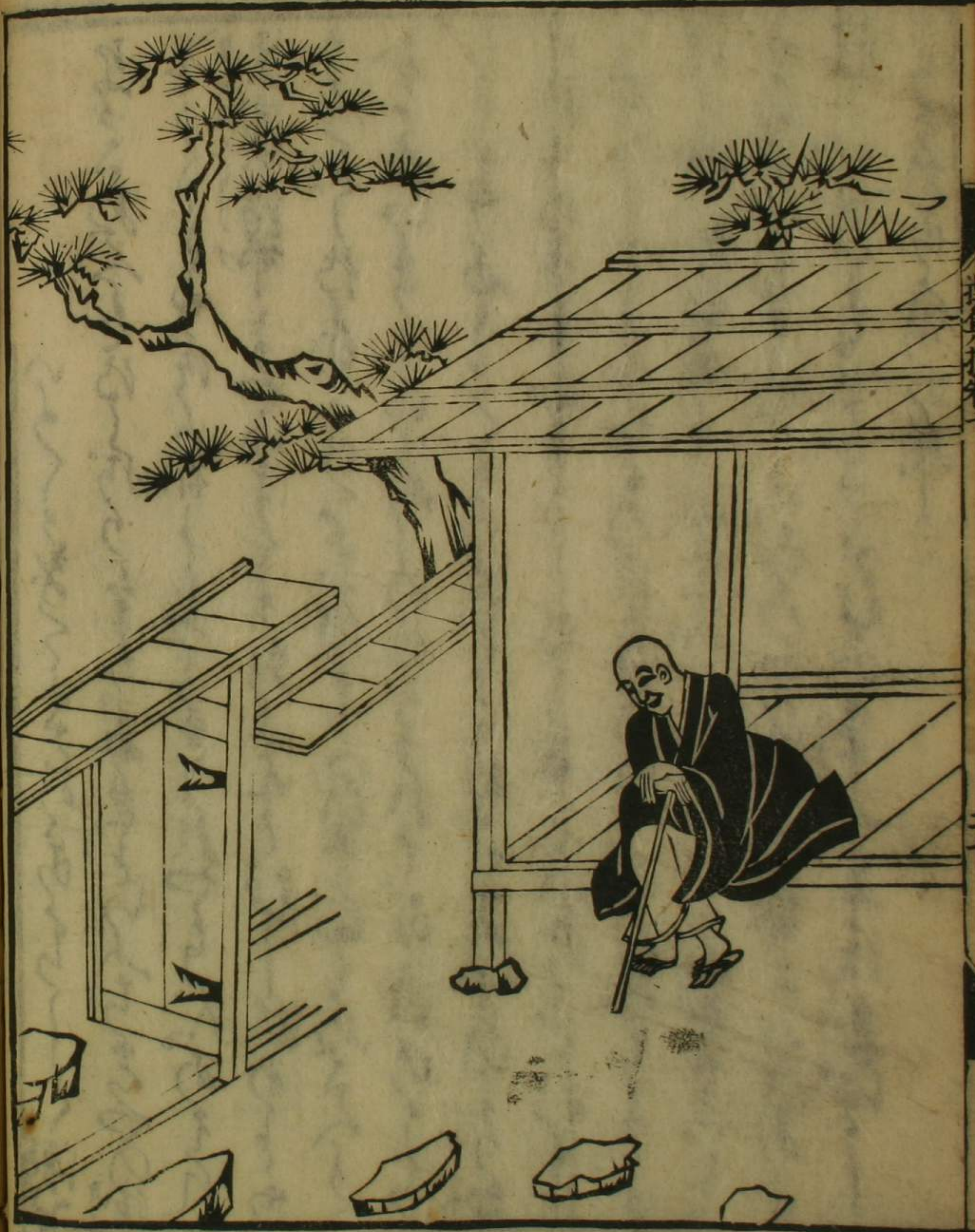


念仏をやらせ給ふ事あり。念仏のありし處を。藤くよ
けをく。あつたの梅く。若くあつた。念仏の類と云え
け。後をまう。積たれた。目たは。あつた。これ。後ひ
際。ゆ。まう。た。た。わ。ら。ん。て。ひ。く。ん。あ。つ。た。ま。う。
ま。あ。一。く。久。く。た。ま。の。屋。ま。う。く。月。廿。四。日。の。あ。つ。た。ま。う。
お。ら。り。ま。う。ら。り。給。ん。ら。り。あ。ん。ぐ。く。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
月。ら。り。く。念。仏。を。やら。せ。給。ふ。事。あり。と。傳。へ。た。の。ま。う。け。り。
け。人。の。ま。う。積。た。傳。へ。た。の。ま。う。ま。う。と。び。ま。う。ま。う。に。ま。う。
後。を。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。の。本。の。ま。う。ま。う。の。後。ま。う。ま。う。
う。人。を。ま。う。ま。う。ま。う。の。ま。う。の。中。ま。う。ま。う。の。圓。光。の。ら。り。ひ。ま。う。ま。う。
處。あり。と。傳。へ。た。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
け。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
け。り。

念仏をやらせ給ふ事あり。念仏のありし處を。藤くよ
けをく。あつたの梅く。若くあつた。念仏の類と云え
け。後をまう。積たれた。目たは。あつた。これ。後ひ
際。ゆ。まう。た。た。わ。ら。ん。て。ひ。く。ん。あ。つ。た。ま。う。
ま。あ。一。く。久。く。た。ま。の。屋。ま。う。く。月。廿。四。日。の。あ。つ。た。ま。う。
お。ら。り。ま。う。ら。り。給。ん。ら。り。あ。ん。ぐ。く。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
月。ら。り。く。念。仏。を。やら。せ。給。ふ。事。あり。と。傳。へ。た。の。ま。う。け。り。
け。人。の。ま。う。積。た。傳。へ。た。の。ま。う。ま。う。と。び。ま。う。ま。う。に。ま。う。
後。を。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。の。本。の。ま。う。ま。う。の。後。ま。う。ま。う。
う。人。を。ま。う。ま。う。ま。う。の。ま。う。の。中。ま。う。ま。う。の。圓。光。の。ら。り。ひ。ま。う。ま。う。
處。あり。と。傳。へ。た。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
け。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。ま。う。
け。り。









相とせせ乃親善の極善の親善ふかたをあれせ妙々
 宗噴阿署架う流れをよむとけけう金ありふしと被り
 け親善とけ中谷乃親善ふあどく命有りく。持佛堂
 とけ中谷堂こそ中流へんく流あ。大志わりの化用。P
 い法も申くあふゆきえ。是きいふふ思誠めが覺悟

⑤

大智の罪乃事

伯耆乃國大山と云ふ。大智の罪とて一と罪あり
 中の流もわくろあしたあふ事。きああて月の心乃智
 におあぶらしくくまゆら。流も地を地流堂の薩めくあに
 悔ととと。びう。後方と云ふのうらら。世あてま
 くの物をうらな流れよ。例よりもああるを清
 といふてくくくくあふたり。けあてをくくくくく
 きてし。家持佛堂乃千社乃地流めく。あて一海くあ



治義乃其昔歴の由一由のゆればは多し能く津社を
 南向より見る能く海を望むるは多し能く津社を
 西廊より望むるは多し能く津社を
 いさよにきくは海よぬは多し能く津社を
 おあはれなり。南の海より望むるは多し能く津社を
 なるにともなく見せしむるは多し能く津社を
 めくはむるは多し能く津社を
 たやむるは多し能く津社を
 けぶるは多し能く津社を
 ひとごとくなり。東を望むるは多し能く津社を
 あたりふかすは多し能く津社を
 志を津社の人より望むるは多し能く津社を
 志を津社の人より望むるは多し能く津社を

花あそびふ一村のよはむす。津社のよはむす。津社
 たり。一たびは廻廊より望むるは多し能く津社を
 じ。あそびふは多し能く津社を
 唯佛道中より望むるは多し能く津社を
 の事とせん。信宣のりし。あそびふは多し能く津社を
 多し能く津社を
 りんは多し能く津社を
 考ふは多し能く津社を
 おもくは多し能く津社を
 乃ひは多し能く津社を
 あり。は多し能く津社を
 らんは多し能く津社を



